

平成28年度「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」作文中学生の部 優秀賞  
(群馬県治水砂防協会会長賞)

「土砂災害のこわさ」

渋川市立渋川北中学校 1年 吉田 英汰

僕は今までに土砂災害について、ふかく考えたことはありませんでした。しかし僕は今年の4月16日に熊本県阿蘇村であった土砂災害がおこってからふかく考えるようになりました。この土砂災害では死者が50名、避難者は約、2万2千人となっています。僕はこの数字を見てとても驚きました。僕は土砂災害は地面がくずれただけだと思っていました。しかし土砂災害とはたくさんの人々の命をうばい、たくさんの建物をこわすおそろしいものだと感じました。たくさんの人々の命が土砂災害によってうばわれるということは、いつどこでおきるかわからないということになります。土砂災害をふせぐために防止工事を進めているところもありますが、進めていないところもたくさんあります。もし、防止工事が行われていないところで土砂災害がおこったら、被害はとても大きく、多くの命がうばわれてしまうはずですが、僕は、防止工事をおこなえば被害も小さくなり、命がうばわれることも、なくなっていくと思います。僕は土砂災害を体験した事はありません。なので土砂災害のこわさは分かりません。最近では台風がきていて、土砂災害がおこりやすくなっています。土砂災害は雨でおこったり地震でおこったりします。僕はこのことから土砂災害は自然現象がおこることによっておこるものとわかりました。天気予報で雨がふったり台風がくることを知っていれば土砂災害がおこるかもしれないと思うことができます。そうしたらもしかすると自分や他の人の命が助かるかも知れません。土砂災害がおこってから何日たっても復興できず、たくさんの月日がたっています。土砂災害は建物をこわす恐ろしいものでもあります。建物がこわされたことによって住人は新しい家を建てなくてはなりません。土砂災害は人の命をうばい、たくさんの建物をこわすだけじゃなく、助かった人々の財産もうばうものだとわかりました。新しい家が建てられるまでの間、住人は仮設住宅に住みます。ですがその仮設住宅は危ないかも知れないと僕は聞きました。建てられている仮設住宅のうち60戸が、土砂災害のおそれのある土砂災害警戒区域かそれに相当する場所に建てられました。これは仮設住宅に住んでいるともしかすると土砂災害にあうかも知れません。もしこれで土砂災害がおこったら、たくさんの人々の命がうばわれ、建てた仮設住宅もこわれてしまいます。なので仮設住宅が安全というわけではないかも知れません。

最近では台風が近づいてきています。この台風では土砂災害警戒情報が発表されています。僕はこれを見て、ニュースなどで確認するのが大切だと思いました。もしこのような情報を知っていればひなんの準備や対策ができます。そうすれば自分の身は安全になり、おちついて行動ができます。僕はこれらのことから土砂災害の被害は小さくなると思います。土砂災害は自然現象がおこるとおこりやすくなります。なのでニュースなどで確認をすれば、ひなん準備やひなんをするのをはやくできます。家などの建物がこわれるのを防ぐことはむずかしいですが自分の命を守ることはできます。仮設住宅に行っても、もしかすると危ないかも知れないのでまわりを見たり、情報を確認することが大切だと思いました。そして土砂災害の前兆現象がおきているのかの確認も大切だと思いました。もしその確認ができたならニュースを見なくても自分たちの身の危険が分かり、すぐに対策もできます。僕がニュースを見て一番思ったのは自分の身は自分で守らなくてはいけないということです。自分でしっかり情報を確認すればはやめのひなんもでき自分の身は安全になっていきます。防止工事がしてあったとしてもゆだんせずに、落ちついて行動することができればもっと、自分の身を守ることができると思います。自分の身を守るために情報確認をしっかりし、はやめのひなんが大切だと僕は思います。